

閉会挨拶

| | |
|------|---|
| 著者 | 西原 鈴子 |
| 図書名 | 世界の漢字教育：日本語漢字をまなぶ：国立国語研究所第8回NINJALフォーラム |
| ページ | 79-81 |
| 発行年 | 2017-01-20 |
| シリーズ | NINJALフォーラムシリーズ；6 |
| URL | http://doi.org/10.15084/00000945 |

閉会挨拶

西原 鈴子（国際交流基金日本語国際センター所長）



今日は、こんなにたくさんの方々が、こんなに長時間、この演台の部分に目が釘付けになっていました。長い時間、ほんとうに大変なことだと思いながら見ておりました。漢字を含む文字表記をもった日本語を学ぶことのエキスパートの方々に各国からきていただいて、その方法およびその姿を見せてくださったということだけでも、私たちにとって非常に大きな意味があったといえます。

楽器を学ぶとか、なんのお稽古ごとをするのでも同じだと思っておりますけれど、耐えなければならぬ基礎練習を経て、やっとエキスパートになっていくということが、いろいろなことばで語られたと思うんですね。でも、共通して皆さんがおっしゃったのは、「楽しい」という、すごいキーワードです。漢字が楽しいということは、私たちが心に銘じて受け止めなければならぬことだと思えます。基礎的な積み重ねのなかで、必要悪なのであれば、善にしておしまおうというところが、成功者と失敗者という中途退学者の差になっていくのかなと思ひながら聞いておりました。

この場にいらっしやった多くの方々は、日本の公教育のなかで母語の一部として表記を習って成長したと思うのです。日本の国語教育は、一貫して、いまもそうだと思うのですけれど、手がおぼえる、身体がおぼえるというところで、六年間かけて千字、九年間かけて合計二千字プラスを身体に覚えさせるという形で、毎日、何百字書くのでしょうか。ときどき、「あんたは悪い子だから、罰ゲームとして漢字書いてなさい」みたいなにして、罰ゲームとして教育されて育ってきた方もいるんじゃないかと思うんです。たぶん、多くの方々は九年間かけて二千字学んだわけですが、日本語を外国語として学習する方々は、そんなことをしていたらいつまでも終わらないので、これを五倍の速度に凝縮するくらいにギュッと詰め込んで学ばれ、チャレンジして成功なさるといことになるわけですね。今日は大変有益なことを聞かせていただきましたし、それからこの場にいらっしやって、日本語教育、あるいは外国人に対して日本語を教育する立場になろうとしている方々にとっては、多くのノウハウについての学びであったと思います。また、そうではなく、漢字というものが、どのように学習されているかを学びたかった、またはそれに

興味があつていらつしゃった多くの方々にとつても、この場は一つの大きな学びのチャレンジを皆さんに提供したのではないかと思います。それはどうということかというところ、この場にいらつしゃる多くの日本人の方々は、さきほどなたかが、それを当たり前にしているとおっしゃいましたけれど、日本人の頭を作つてきて、日本人の頭でコミュニケーションをしているということですよ。よく国際会議や国際的な議論の場で、日本人はなにか包括的に理解して、漠然とというのは悪口なのですけれども、なにかポイントが西洋人のようでないものいい方、ものの書き方、発表の仕方になつていてという批判があると思うのです。これが字を意味として捉えてしまう文化と関係がないとはいえない。この文化に魅力を感じてトリーニ先生は山を登つてくださったと思うのですけれど、われわれは今度は反対に、世界と対峙するときに、これで損をしたり、このことを当たり前だと思つて非漢字圏の方々とはコミュニケーションしてしまつたりすることがあるのではないか。自分つてなに、漢字をもつて私たちつてなに、漢字をもつて私たちつて、世界に対してどう発信していけばいいか、というような課題を今日のシンポジウムからいただいたのではないかと捉えております。そういう意味で皆さん方、お忙しいなか外国からきてくださったって発表していただきましたこと、それから濱川先生、加納先生がとてもよくまとめてくださり、司会がちゃんと司会をしてくださったことにも感謝したいと思います。

最後に一言だけつけ加えさせていただきます。今日、共催という形で名前をだしていただいている国際交流基金日本語国際センターは、外国で日本語を教えていただく、日本語を母語としない先生方（本日の登壇者のなかには私どもの研修を経ていまご活躍になられている方も含まれています）に日本語、日本文化、日本語の教育方法についての研修を提供する機関であります。一九八九年にできましたので今年が二十五周年になつており、その間に一万人以上の先生方をお迎えし、送り出して今日に至つております。

また、一番新しい先生方として四十人ほどがここにいらつしゃっていますが、九月から三月までの半年にわたつて日本に、または北浦和に滞在して、日本語、日本文化、日本語の学習方法についてまなぶ、経験三年以下の若い先生方ですけれど、そういう先生方にとつて、漢字を自分の学習者たちにどのように提供していくか、どういうふうな学習してもらおうかというようなことは、永遠の課題となつておりますので、そういう意味でも私どもが今日、共催という意味で参加させていただいたことに非常に感謝しております。国立国語研究所にもその点、深くお礼を申し上げます。

本日は長時間にわたって、熱心にご参加くださりまして、ほんとうにありがとうございました。改めてお礼申し上げます。